

(グループ活動)

「伝え合い、高め合い、学び合える子どもをめざして」

～学習におけるグループ活動の検証～

大阪市立長吉南小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校の児童は、学力面における二極化が進んでいる。そこで一昨年度は、学習の素地作りを研究テーマとし、子どもの学習意欲向上のための手だてを探った。その結果、子ども同士「互いに話し合うこと」「ともに課題解決を進めること」で、意欲をもって学習に取り組むことがわかった。また、児童の「聴く姿勢」を育成しておくことが学習の基本姿勢となることも確認することができた。そこで昨年度は、算数科に絞ってグループ活動を取り入れた授業展開を研究した。個人の特性や人間関係を考慮したグループ編成の重要性とともにクラスの話し合いによって個人の考えをまとめあげていくためのいくつかの手法を見つけておくこともできた。そこで本年度の研究では、児童の学習意欲と学習効果をより高めるために、いろいろな教科におけるグループ活動の可能性を検証することとした。

2. めざす子ども像

(1) 人の意見を聴き、自分の考えを深める子

聴く力を育成するためには、話し手の顔を見てその内容を正確に聴き取ることが大切である。その上で、相手の意見を受けて、自分の意見を発表できるよう育てていきたい。学習場面では、これまで取り組んできたハンドサインをさらに定着させつつ、友だちの意見と比較したり、補足、発展させたりしながら学習課題を児童同士で解決できるようにしていきたい。

(2) 違いを認め合い、自分から相手に関わろうとする子

本校の学校教育目標の一つである「互いが違いを認め合い、人を思いやる心をもった子」を学習活動の中で実践するためにも、互いに関わる場を意図的に学習活動の中に組み込む必要がある。そのためには、指導者が児童の能力や特性を考慮したグループを編成し、学習活動を組織する必要がある。お互いの意見や特性を尊重し、いい影響を与え合えるような関係性を育んでいきたい。

(3) あきらめずに学び続ける子

あきらめずに学び続けるためには、学習活動に「楽しさ」「達成感」「満足感」等が必要であると考えられる。それに加え「自分も必ずできるようになる。」という「できる見通し」があれば、子どもは意欲的に学習活動が続けていくことができるのではないだろうか。グループ活動の中によって、この「学習の楽しさ」や「できる見通し」を養う。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

| |
|--------------|
| 視点① 「聴く力」の育成 |
|--------------|

「聴く」構えを普段の学校生活のいろいろな場面で育成した上で、学習活動の中で「聴い

て考える」ことのできる子どもを育成したい。そのためには、次のような指導のステップが考えられる。これらの指導ステップを学年に応じて系統的に指導していくものとする。

1 友だちの考えを正しく聴き取る。

2 理解できなかった点や疑問に思う点、興味のある点について質問を通して確認する。

3 友だちの意見を聴いた上で、自分の意見をもつ。

4 友だちの意見と自分の意見を比較したり、補足したり、発展させたりしながら発表する。

全校児童にもたせている「^{みなしょう}南小メモ」により、意識して聴くことを習慣づけてきた。授業中はもとより、全校朝会での話や、クラスの日々の連絡事項、クラブや委員会等の連絡など、あらゆる機会を通して聴き取ったことを、要点を整理して書き留めるスキルを育てていきたい。

視点② グループ活動の効果的な活用

学習活動の中で児童同士が関わり合う場面を作るため、学習活動に応じて指導者が意図したグループ編成をする必要がある。指導者は、子どもの能力や性格・特性を考慮した上で、グループ活動が活性化するように組織することが重要である。指導案においては、グループ編成における教師の意図が見えるように明示するようにする。

グループ活動の際には、指導者は子どもの活動を見守り、子ども同士の関わりを促すための適切な声掛けが必要になってくる。どのような場面で、どのような声掛けが子ども同士の関わりを促すのか、いろいろな教科による授業研究等を通じて検証したい。

視点③ 効果的な発問

1 時間の授業の中で、児童に最も考えさせたい、あるいは身につけさせたい主発問を考えるとともに、児童の反応や発表からさらにいくつかの補助発問を事前に用意しておくことが必要である。児童が迷うことのない的確な発問と、児童の反応に対する教師の返し方を研究の視点の一つとして検証を進めたい。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- クラスの中では自分の考えを言いづらい児童も、少人数では自分の考えを発表することができた。
- 少人数グループにおける話し合いにより、発言の機会が増え、話し合いに厚みが増した。
- 児童同士の特性を生かしたグループ編成により、お互いを伸ばしたり補い合ったりする活動を行うことができた。
- 学習以外の場面でも、児童同士の関わり合いにおいて、優しい言葉かけや相手を思いやる行動が見られるようになり、良好な関係づくりにつながった。

(2) 今後の課題

- グループ活動中の各グループへのよりよい支援のあり方について考えていく。
- グループ活動の時間設定について考えていく。
- メモをとる際の態度について発達段階に応じて指導していく。